

はじめに

松江市教育委員会教育長 清水 伸 夫

松江市では、「学力向上や不登校、いじめなど多くの教育諸課題の解決」と「子どもたちの健やかな成長と活力あるまちづくり」をねらいとして、平成 22 年度から全学園（中学校区）で小中一貫教育を市教育行政の最重点施策として進めてまいりました。この度、本格実施後 5 年を経過したことで、これまでの取組について「どのような成果があったのか」「課題は何か」を明確にし、今後の小中一貫教育の方向性を探ることといたしました。

本市小中一貫教育推進の基本的な考え方は、次の 3 点です。

- ① 学習指導要領をもとに、各学園の特色を活かした教育を進める。
 - ② 幼児期から義務教育 9 年間を見通し、一貫した教育の充実を図る。
～たての一貫教育～
 - ③ 学校・家庭・地域が協働し、地域で子どもたちを育てる学校・まちづくりを進める。
～よこの一貫（環）教育～

「たての一貫教育」は、学園で教育目標やめざす子ども像を設定し、その具現化に向けて一貫した取組の柱や内容を明確化・重点化して、幼児期から小中 9 年間で中学校卒業時の子どもの姿「15 歳の春」を見据えた教育を推進するものです。「よこの一貫（環）教育」は、地域ぐるみの教育の推進と充実に向け各学園に設置している地域推進協議会を中心とし、学校支援地域本部を活用した学校教育への保護者や地域住民の積極的な参画により、学校・家庭・地域が協働して地域で子どもたちを育てていくものです。この「たて」と「よこ」の一貫教育を基軸として、学園で小中一貫した「ふるさと教育」や「キャリア教育」などを推進し、各学園が特色ある教育を進め、充実した小中一貫教育としていきたいと考えています。また、小中一貫教育をとおして小中 9 年間の教育課程や互いの文化理解など小中の構造的理解を深め、地域との関わりの中で子どもの教育を考えることのできる教師が育つことも期待しています。

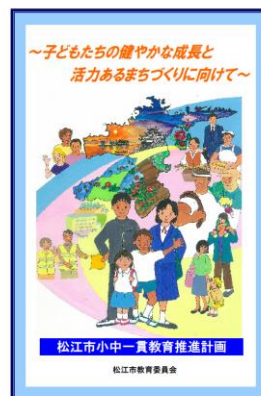
先般、国では小中一貫教育の制度化が決定しました。本市は他の地域に先んじて小中一貫教育を進めて参りましたが、その歩みは決して成果ばかり表れているわけではなく、課題も多く抱えながら取組を進めてきたものです。この度、この歩みの振り返りをとおして、成果で挙げられた事項をさらに推進するとともに課題については改善を図り、松江市らしい小中一貫教育の在り方を考えています。そして、小中一貫教育の取組により、松江市の子どもたちが、「ふるさと松江を愛し、確かな学力と豊かな人間性・健やかな体を持ち、国際社会の一員として、力強く未来を切り拓く」人の育成に努めてまいりたいと思います。

目 次

◆ はじめに	P. 1
第一章 「松江市小中一貫教育の歩みと現状」	
Ⅰ 導入の経緯	P. 5
Ⅱ 基本的な考え方	P. 5
Ⅲ 具体的な取組	P. 6
1 取組について	P. 6
2 取組の柱	P. 6
（1）「たての一貫教育」	P. 6
（2）「よこの一貫（環）教育」	P. 8
3 学園のタイプ（型）別の主な取組	P. 8
第二章 「小中一貫教育を振り返って」（検証）	
Ⅰ たての一貫教育	P. 12
1 小中一貫教育体制の構築について	P. 12
（1）教職員の共同指導体制について	P. 12
（2）教職員の意識について	P. 13
（3）「4・3・2」の教育区分中期（小5～中1）での活動評価について	P. 15
（4）まとめ	P. 16
2 小中9年間を見通した教育課程の編成と実施について	P. 17
（1）学習指導について	P. 17
（2）生徒指導について	P. 22
（3）人権教育について	P. 24
（4）特別支援教育について	P. 26
（5）ふるさと教育・キャリア教育について	P. 28
Ⅱ よこの一貫（環）教育	P. 32
1 地域ぐるみの教育による学校教育の充実	P. 32
（1）学校教育への地域の方の参画	P. 32
（2）授業等の成果について	P. 34
2 活力あるまちづくり	P. 34
（1）子どもと地域、学校と地域のつながり	P. 34
（2）活力あるまちづくりに向けて	P. 36
（3）地域・保護者から見た小中一貫教育の成果	P. 36
3 まとめ	P. 37

第三章 小中一貫教育を推進するために（総括）

I	成果について	P.	40
1	学習や生活面における中1ギャップの改善	P.	40
2	小中教職員の共同指導体制の確立と保幼小中教職員への指導体制の広がり	P.	40
3	学園や学校を支援するよこの一貫（環）教育の充実	P.	40
II	課題について	P.	41
1	小中一貫教育を活かした学力向上	P.	41
2	教職員の意識の向上	P.	41
III	今後の取組について	P.	42
1	小中一貫教育を活かした学力向上に向けて	P.	42
2	教職員の意識の向上に向けて	P.	43
◆	おわりに	P.	44
資料	I 松江市小中一貫教育の歩み	P.	46
	II 学園名、シンボルマークと由来	P.	47
	III 各学園の取組	P.	48
	○施設分離型		
	1. 千鳥の杜学園	2. 嵩の杜学園	3. まつえ天神川学園
	4. 津田古志原夢きぼう学園	5. まつえ湖南学園	6. 湖東かなび学園
	7. 湖北白鳥学園	8. 鹿島ふれあい学園	9. 玉湯まがたま学園
	10. 宍道みずうみ学園	11. ほっとハート東出雲学園	
	○施設隣接型		
	12. 本庄水辺の学園	13. しまね潮風学園	14. 海と朝日の美保関学園
	15. やくも意宇学園		
	○施設一体型		
	16. 八束学園		
IV	松江市立小中学校事務グループの取組	P.	64



第一章

「松江市小中一貫教育のあゆみと現状」

I 導入の経緯

平成 17 年度の市町村合併により誕生した新生松江市にふさわしい「学校教育のプラン」の作成が始まり、その中で「小中一貫教育構想」が浮上した。当時、島根県全体の大きな課題として全国的に見ても中学生の不登校率の高さがあげられ、本市では特に小学校 6 年生時に比べて中学校 1 年生時の不登校率が数倍に達していることが問題となった。また、不登校だけではなく学力向上や生活習慣・学習習慣の定着、特別な支援を要する児童生徒の増加など多くの課題を抱えており、これまで以上に小中学校が連携して児童生徒を育てる必要があると考えた。平成 18 年度策定の「学校教育プラン」では、これら今日的な教育諸課題の解決に向けて、幼児期から小中学校 9 年間を見通し一貫した教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が協働した地域ぐるみの教育を推進していくことが不可欠であるとし、「松江らしい特色ある教育の推進」の中で「小学校と中学校が一貫・連携し、地域とともに特色ある教育を創造する」という「小中一貫教育構想」が盛り込まれた。

その後、小中一貫教育推進モデル校区を指定し、モデル校区の取組の発信や小中教職員相互交流事業、小中一貫教育研修会などをおして小中一貫教育を進め、平成 22 年 3 月に策定した「松江市小中一貫教育推進計画」をもとに、平成 22 年度からは全学園（中学校区）で小中一貫教育の取組を実施した。平成 23 年 1 月には小中一体型校舎の小中一貫校「八束学園」が開校し、平成 25 年度からは副教育長を本部長とする「小中一貫教育推進本部」を設置し、特色ある学園教育の推進へと歩みを進めている。

II 基本的な考え方

項 目	内 容
目 標	学校・地域の教育諸課題を改善し、子どもたちの健やかな成長を図る
めざす 子ども像	ふるさと松江を愛し、確かな学力と豊かな人間性・健やかな体を持ち、国際社会の一員として、力強く未来を切り拓く児童生徒
めざす学校 ・地域像	○小中学校の教職員が、幼児期から義務教育 9 年間を見通し一貫した教育に共同して取り組むことにより、自らの指導力を高め、教育力の向上を図る学校 ○保護者や地域住民が学校教育に積極的に参画し、学校・家庭・地域が協働して子どもたちの教育に取り組む学校・地域
求める 教職員像	○子どもたちの育ちを、幼児期から義務教育 9 年間を見通して考えることができる教職員 ○子どもたちの育ちを、保護者・地域と協働して考えることができる教職員

基本方針	○学習指導要領をもととし、各学園の特色を活かした教育を進める。 ○「4・3・2」の教育区分を基に、幼児期からの連携を図りながら義務教育9年間の連続し一貫した教育課程を編成・実施する。～たての一貫教育～ ○学校・家庭・地域が協働して、学校・地域の教育諸課題の改善を図り、地域で子どもを育てる学校・まちづくりを進める。～よこの一貫(環)教育～ ○各小中学校がそれぞれ特色ある学校づくりを進めると共に、小中一貫教育を推進するために、各学園を所属感のあるまとまりのある「組織」に構築する。 ○9年間を見通した松江市の特色ある教育として、「ふるさと教育」「国際理解・英語教育」「キャリア教育」などを各学園の特色を活かした取組として推進する。
小中一貫教育によって期待されること	○これまでの6・3制の教育を、子どもの発達段階に対応した9年間の一貫した教育に変えることで、子どもたちのより一層の健やかな成長が期待できる。 ○異学年交流や異学年集団による学習や諸活動を通して、豊かな人間性と社会性を育てることが期待できる。 ○学校教育と地域教育との協働のもとに、新しい教育活動や地域活動の創造が期待できる。 ○教師が9年間の教育課程の構造を見直すことによって、自らの指導力をより高めることができる。

Ⅲ 具体的な取組

1 取組について

子どもをとりまく社会環境の変化とそれに伴う多くの教育諸課題の解決に向けて、小中学校が一貫した教育を行うとともに、学校・家庭・地域が協働して子どもを育てる必要がある。そこで本市では、幼児期から小中学校で一貫した「たての一貫教育」(小中一貫教育推進事業)と、学校・家庭・地域が協働した「よこの一貫(環)教育」(地域とともにある学校づくり推進事業)を2本柱とした小中一貫教育により、子どもたちの健やかな成長を図っていくこととした。

また、学校数や学校間の位置、地域性等を活かして、その学園のタイプ(型)や実態に応じた特色のある小中一貫教育を推進する。

2 取組の柱

(1) たての一貫教育

① 小中教職員の共同指導体制の構築について

子どもたちの健やかな成長を目指し、小中学校の教職員が共同して義務教育9年間の学



学園小中合同職員会議・分科会

習・生活面の一貫した指導・支援を推進する。

1) 学園の課題や良さの共通理解、学園共通の目標や取組の設定

2) 各学園をまとまりのある「組織」に構築

○組織づくり ○定期的な全体会議や部会等の開催

○小中相互理解 ○合同授業研究会・研修会

○情報ネットワークや事務管理システムの構築

3) 「中期」の重視

○小中の授業、学習方法、評価 ○児童生徒理解

○小6の中学校体験活動 ○小小交流

○乗り入れ授業、出前授業 ○一部教科担任制



中学教師による小学校での授業



小中異学年交流授業

② 小中9年間を見通した教育課程の編成と実施（資料1参照）

義務教育9年間を「4・3・2」に教育区分し、それをもとに各学園・各学校の教育課程を編成し、子どもたちの発達段階に応じた教育の充実を図る。

1) 「4・3・2」の教育区分による子どもたちの発達段階に応じた教育の充実

○小中一貫基本カリキュラム ○子ども一人一人への指導・支援

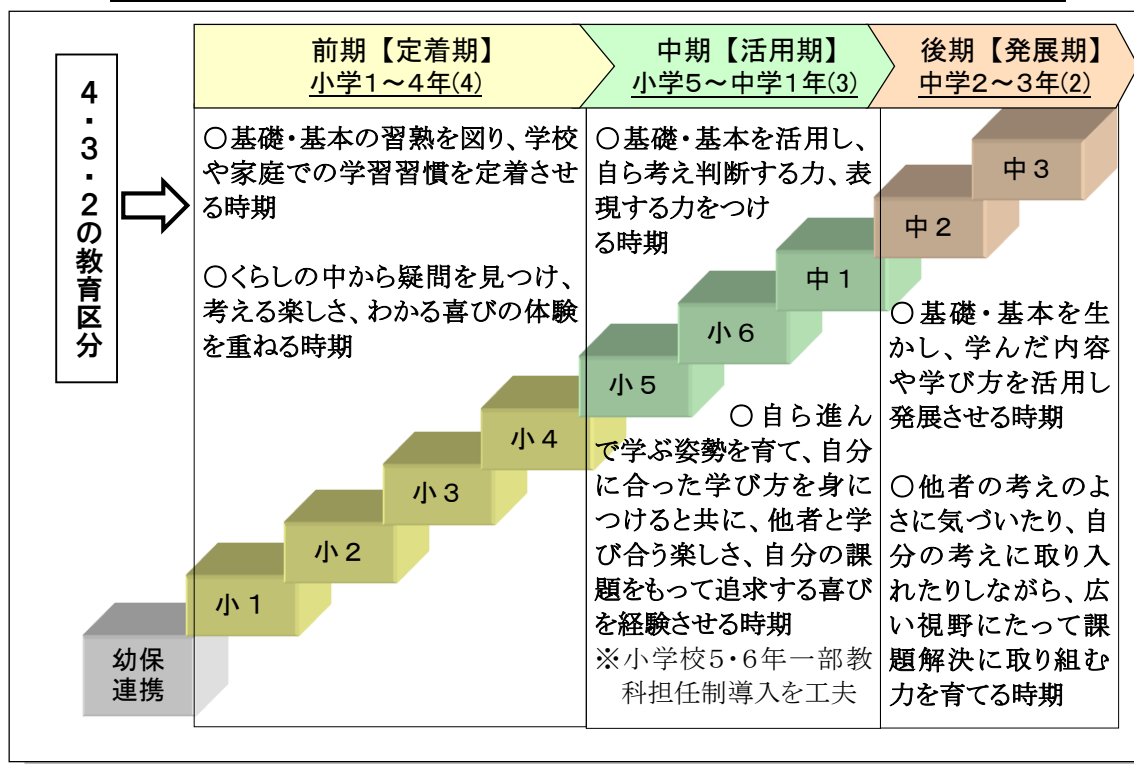
○保幼小接続カリキュラム ○小中一貫教育授業発表会

2) コミュニケーション能力、社会性の育成

○異年齢交流活動 ○合同授業 ○合同行事

3) 学園9年間を連続し一貫した「学習指導」「生徒指導」「人権教育」「特別支援教育」「ふるさと教育」「キャリア教育」の推進

【資料1】「4・3・2」区分を基にした小中9年間を見通した教育課程の編成と実施



(2) よこの一貫（環）教育

① 地域ぐるみの教育による学校教育の充実

「学習支援」「学校環境整備支援」など地域の方々の参画により
学校教育の充実を図る。

1) 学校教育への地域の方の参画

ア 小中一貫教育地域推進協議会 イ 学校支援地域本部

② 活力あるまちづくり

「あいさつ運動」「地域行事」などに学校・家庭・地域が協働して取り組み、子どもたちの健やかな成長を支えるまちづくりを進める。

1) 地域で子どもを育てるまちづくり

「あいさつ運動」「メディアコントロール・ウィーク」「学園カレンダー」

2) 児童生徒の地域活動への参画（地域への社会貢献）



地域ボランティアによる学習支援

3 学園のタイプ（型）別の主な取組

(1) 施設分離型：校区の小中学校が離れている学園

〔たての一貫教育の取組例〕

- ・学園合同研修会・定例部会、定例の保幼小中（高）管理職会の開催
- ・学園内の授業研究会、教科領域部会の実施、学園教科カリキュラム作成等
- ・学園の学力育成（学力調査検討会、学園内各校の公開授業の参観等）
- ・中学校オープンスクールや中学校体験授業・部活動体験
- ・生徒会の小学校訪問、小中学生のあいさつ運動・ボランティア活動
- ・学園音楽交流会の開催等
- ・小小交流（例：学園内5年生交流会、学園内の他校訪問交流、合同修学旅行等）
- ・キャリア教育を視点とした学園カリキュラムの実践

〔よこの一貫（環）教育の取組例〕

- ・地域推進協議会主催のあいさつ運動（ポスターやバッジの作成・配布、のぼり旗作成、あいさつ標語募集）や「いいこと見つけのはがき」運動、生徒会役員の生徒と地域推進協議会委員の懇談会等
- ・ふるさと教育を支える地域の取組（教職員の地域研修会支援、地域体験活動の補助）
- ・学校支援地域本部の学校支援
- ・地域ぐるみのキャリア教育の取組（地域推進協議会主催キャリア教育フォーラム開催、学園版「夢☆未来」塾（地元の企業の方の出前授業）等）
- ・児童生徒の地域との交流や地域貢献

（２）施設隣接型：小中学校が隣接した学園

〔たての一貫教育の取組例〕

- ・ 学園合同研修会・定例部会、定例の保幼小中管理職会の開催
- ・ 学園内の授業研究会、教科領域部会の実施、学園教科カリキュラム作成
- ・ 小学校での中学教師の授業、小中教職員 TT 授業、小学生の中学校での授業など
- ・ 小中合同避難訓練、小中交流合唱、学園ロードレース大会、中学生総合学習発表会や弁論大会の小学生参観、学園朝マラソン、学園ボランティア活動、保幼小交流活動等

〔よこの一貫（環）教育の取組例〕

- ・ 地域推進協議会主催のあいさつ運動や「地域の子どもを語る会」の開催、公民館主催の「地域の日」（町内各地区で小中学生が保護者・地域住民と活動）等
- ・ ふるさと教育を支える地域の取組（教職員学園地域めぐりや研修会の支援、地域体験活動の補助、地域の伝統文化の伝承活動等）
- ・ 学校支援地域本部の学校支援
- ・ 地域の施設を活用した学園行事の支援（例：地域に整備された「水辺の学校」を活用したクリーン作戦・海開き・小中合同釣り大会等）
- ・ 児童生徒の地域との交流や地域貢献

（３）施設一体型：小中一体型校舎の学園（八束学園のみ）

＜八束学園の概要（平成 23 年 1 月開校）＞

〔組織〕 学園長 1 名・教頭 2 名、教職員は小中兼務、事務職員 2 名、養護教員 2 名

〔施設〕 職員室 1、保健室 1、図書室 1、体育館 2、理科室 2、多目的ホール 等

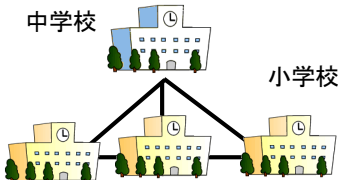
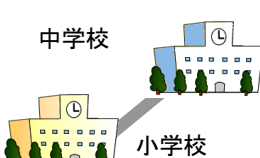
〔たての一貫教育の取組〕

- ・ 「4・3・2 教育区分」のブロック別に教職員グループ組織
- ・ 1 年生で入学し 9 年生で卒業（6 年卒業式、7 年入学式なし）
- ・ 小中兼務を活かした教科指導や生徒指導
- ・ 中期 5，6 年生で一部教科担任制、6 年生期末テスト実施
- ・ 学園行事やブロック行事等（学園体育祭、音楽祭、前期ブロック遠足など）
- ・ 異学年交流授業や生き方学習 等

〔よこの一貫（環）教育の取組〕

- ・ 地域推進協議会、屋外環境活用委員会による芝生や花壇、農園の維持管理
- ・ 小中一本化した学園 P T A 活動
- ・ 学校支援地域本部の学校支援
- ・ 児童生徒の地域との交流や地域貢献

【資料2】：学園のタイプ（型）

タイプ	小中一貫教育校		小中一貫校
	(1) 施設分離型 〔11 学園〕	(2) 施設隣接型 〔4 学園〕	(3) 施設一体型 〔1 学園〕
	 中学校 小学校	 中学校 小学校	 (小・中学校)
学園	小学校 3校以上	千鳥の杜学園(一中) 嵩の杜学園(二中) 湖北白鳥学園(湖北) 鹿島ふれあい学園(鹿島) ほっとハート東出雲学園 (東出雲)	八東学園(八東)
	同規模の 小学校 2校	まっえ天神川学園(三中) 津田古志原夢きぼう学園 (四中) 湖東かんぴ学園(湖東)	
	規模の異 なる小学 校2校	まっえ湖南学園(湖南) 玉湯まがたま学園(玉湯) 宍道みずうみ学園(宍道)	

「小中一貫教育」で育む松江っ子

～学校・家庭・地域がつながりあって～

なぜ、今「小中一貫教育」なのか

子どもたちを取りまく社会環境の変化とそれに伴う教育課題に対応

①6・3制では対応しきれない子どもたちの心身発達速度の変化に対応

少子化、情報化等による社会環境の急激な変化の中、教育をめぐっては学力や不登校、いじめなど多くの課題が指摘されています。子どもたちの生活習慣や学習習慣の形成、思考力・表現力の育成など、子どもたちの健やかな成長を図るためには幼児期から小学校9年間を見通し一貫した教育を推進すると共に、学校・家庭・地域が協働した地域ぐるみの教育を推進していくことが必要不可欠となっています。

夢に向かって

小・中学校が共同して育みます

幼児期から義務教育9年間を見通し、子どもたちの発達段階に応じた教育の充実を図ります。

小学生と中学生の異学年交流

小・中学校の教職員が同じ目標で

地域で学びます

子どもたちは地域の「人」や「ものごと」とのかかわりを通して、学びを深めます

地域で支えます

子どもたちは、通学の見守りや環境整備、学習支援など地域に支えられて育ちます

（学校教育）
豊かな学力・豊かな心・健やかな体の調和の取れた児童生徒の育成

（幼児期）
遊びを通しての学び

放課後子ども広場

登下校時のあいさつ運動

校庭の緑生化

環境整備「うたて」

学習支援「うたて」

地域の特徴を生かした体験活動

小中学生と保護者や地域の力、みんなの力を合わせた地域の連携活動

幼児期から前期（小学校1年生～4年生）

中期（小学校5年生～中学校1年生）

後期（中学校2・3年生）

小中一貫教育リーフレットより